

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00433

研究課題名（和文）カナダ作家が見／魅せるアントロポセンの文学 脱人間中心性をめざして

研究課題名（英文）Anthropocene Literature Viewed and Captivated by Canadian Writers: Towards a Shift from Human Centrality

研究代表者

岸野 英美（Kishino, Hidemi）

近畿大学・経営学部・准教授

研究者番号：90512252

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：人間活動によって環境破壊や気候変動といった地球環境に深刻な変化をもたらされた地質時代アントロポセンに着目し、カナダ国内外で生じる環境問題に対するカナダ人作家の姿勢を考察した。彼らの多くは危機的状況に置かれた人間の無力さを描いており、困難な時代を乗り越えるために我々が何を考えるべきかの示唆を与えている。また彼らの作品には、拡大化する資本主義経済システムへの抵抗を読み取ることができる。本研究グループのメンバーは、研究発表や論文執筆、シンポジウムやワークショップの企画と開催を通じて、以上の研究成果を公開し、僅かではあるが、環境をめぐるカナダ文学の多様性と広がりを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、アメリカ合衆国主導の環境文学研究において、これまで見過ごされていたカナダの作品に目を向け、多様なカナダ人作家の作品の独自性と接点を探り、アントロポセンにおけるカナダの環境文学の特性を明らかにすることを目指した。本研究はカナダ文学と環境文学の研究に一部貢献できたと言える。本研究はまた、今後、人間が社会や環境との関係をいかに築いていくべきかを考える契機を与え得る。以上より、学術的、社会的な意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Focusing on the Anthropocene, when human activities have brought about serious changes in the global environment, such as environmental destruction and climate change, we have considered the attitudes of Canadian writers toward issues occurring in Canada and abroad in this project. Our finding is that many writers depict helplessness of human beings in the face of crisis and suggest what we should think about in order to tide over the present difficult times. Another finding is that we can read the writers' literary resistance to the capitalist economy system expanding in the world in their works. Through oral presentations at national and international conferences, research papers, and planning or organizing symposia and workshops, we have published the research results and shown the diversity and breadth of Canadian literature on the environment although only slightly.

研究分野：カナダの環境文学

キーワード：カナダ 環境文学 エコクリティシズム アントロポセン（人新世） カナダ西海岸のアジア系作家  
カナダ東海岸のヨーロッパ系作家 M. アトウッド

## 1. 研究開始当初の背景

### 概念・時代区分としてのアントロポセン

本研究では概念・時代区分としてアントロポセンを用いた。アントロポセンとは、2000年に大気化学者のパウル・クルツェンによって提唱され、自然科学だけでなく、人文社会学の方面からも支持される時代区分である。なおクルツェンはアントロポセンの開始を産業革命が始まった18世紀末と述べている。これは、カナダの英語文学の始まりと同時期であるが、本研究グループは1950年以降、特に第二次世界大戦後のグローバリゼーションやテクノロジーの進歩や核開発に伴い、環境汚染や気候変動等の人間活動の増大、いわゆるグレート・アクセラレーションによって地球環境に深刻な変化をもたらしている時期に焦点を当てた。

### 盲点化するカナダの環境文学

アントロポセンが提唱される少し前、S.スロヴィックらが設立した学会 ASLE-US (環境文学学会、1992～) は、グローバル化と多様化を迎えることになる。スロヴィックらの尽力により、ASLE はアメリカ合衆国(以下、合衆国)のみならず、欧州や東アジア等に設立され、日本のエコクリティシズム研究学会や欧州の EASLCE 等との連携も進み、環境作家・研究者の交流が活発化した。やがてエコクリティシズムに人種・民族、ジェンダー、セクシュアリティ、マテリアリティ等の視点が徐々に加わり、環境文学もそれに関連した理論研究も多様化、複雑化している。だが、このように合衆国を拠点とする研究者による環境文学研究のグローバル化に日本や他国、他地域が取り込まれる一方で、ASLE-US の支部的な学会として誕生した ASLE-Canada は、カナダ独自の ALECC (カナダ文学・環境・文化学会、2006) へと発展し、合衆国主導のグローバル化からは一線を画している。そのため、カナダの環境文学は、主に合衆国経由で情報を得る日本の環境文学研究者の盲点となっている。さらに21世紀に入って合衆国を中心とする環境文学研究者は、グローバル化と並行してアントロポセンの概念を研究に組み込んでいく。前述のスロヴィックは論文「第四の波のかなた」で、アントロポセンにおけるエコクリティシズムの可能性を再検討し、環境哲学者 T. モートンは「この美しいバイオスフィアは私のものではない」のなかで、その到来が人間と非人間の境界をあいまいにし、自然という概念をも覆したと述べる。批評家 D. ハラウェイは「人新世、資本新世、植民新世、クトゥール新世」において、いくつもの新世を提唱し、地球上全生物が類縁関係を結ぶことを願う。のちに日本では、2017年に出版された ASLE-J の共著『環境人文学Ⅱ 他者としての自然』のなかで、結城正美がアントロポセンを取り上げる。同年、エコクリティシズム研究学会は共著『エコクリティシズムの波を超えて 人新世の地球を生きる』を、翌年、芳賀浩一は単著『ポスト「3・11」小説論 遅い暴力に抗する人新世の思想』を出版する。このように合衆国主導の環境文学研究において、日本で脱人間中心主義が再考され始めたが、本研究グループはカナダ文学に、建国初期から人間中心的な視点を問い直そうとする作品が含まれていることに注目した。厳しい自然に囲まれながらも豊富な天然資源の恩恵を受け、その弊害にさらされるカナダにおいて、これまで多くの作家が地球環境の変化に反応し、人間と環境の関係性を問う作品を執筆してきた。しかしながら、これらは十分に研究されておらず、不明な点が多い。

## 2. 研究の目的

本研究は1. で述べた考察を背景に、岸野、荒木、佐藤の3名の専門性を生かし、カナダにおける環境をテーマにした文学作品、とくに1950年以降の作品を取り上げて、その特色を幅広く探ることを目的とした。とくに作家たちがいかなる環境問題に目を向け作品にそれを反映させているかを分析し、彼らの作品の接点を明らかにすることを目指した。

## 3. 研究の方法

本研究では、まず国内外で必要な情報を収集・精査し、アントロポセンをめぐる議論や理論、関連するエコクリティシズムの有効性を検討することを試みた。次に個々の作家の作品の独自性と、地域的、人種的な特徴を捉えながら、彼らがカナダでどのように環境に関わりながら社会的強者に抵抗しているのかを検証した。そのうえで作家たちの接点を考察、アントロポセンにおけるカナダの環境文学の特性を探ることを試みた。

岸野：カナダ西海岸のアジア系作家・詩人

荒木：カナダ東海岸ヨーロッパ系作家

佐藤：カナダ内陸の作家(アトウッド、先住民を中心に)

#### 4. 研究成果

本研究を通して明らかとなったのは、すでに D. チャクラバルティや斉藤孝平らが、アントロポセンにおける資本主義問題と地球環境破壊との関係性を指摘しているように、カナダの環境をめぐる作品にも、アントロポセンに利益追求を最優先する資本主義経済システムの弊害が照射されているものが多くあるという点である。とくに本研究でメンバーが取り上げたリタ・ウォン、エレン・ペイジ、ドナ・モリッシーの作品にはカナダで急速に進む天然資源開発によって生じる河川・海資源の乱用や水質汚染の問題と、その近辺に居住する貧困層の先住民への甚大な被害が描かれているのだが、この点については、今後も考察を続けていく予定である。2020 年度から 2023 年度までのメンバーそれぞれの主な研究成果は以下の通りである。

岸野英美は、アジア系カナダ人作家のヒロミ・ゴトーとリタ・ウォンの作品を中心に考察を行った。まず、ゴトーの『ダーケスト・ライト』を分析し、ゴトーの環境意識が現代（環境）思想家や批評家のアントロポセンをめぐる議論、理論に通じることを指摘した論文を『アジア系トランスボーダー文学』にて纏めた。次に水とカナダの資源開発をめぐる問題へのウォンの関心が強く反映された詩集 *undercurrent* から数篇の詩を取り上げ、分析。アジア系アメリカ文学学会にて口頭発表を行い、「リタ・ウォンの『水』をめぐる想像力 *undercurrent* を中心に」と題した論文を同学会の学会誌にて発表した。さらにこの論文に加筆修正を施し『終わりの風景』にて発表、同書の編者もつとめた。一方、ウォンの“lips shape yangtze, chang jiang, river longing”と“for bing ai”の 2 篇の詩を解説し、資本主義経済のグローバル化の影響を受ける三峡ダム建設の問題に対するウォンの抵抗を読み取った。その後、日本カナダ文学学会シンポジウム等で発表。のちに「Rita Wong が描く三峡ダム、長江 “lips shape yangtze, chang jiang, river longing”から“for bing ai”へ」と題した論文を学会誌にて発表した。加えて“for bing ai”への理解を深めるために、ウォンが本詩を創作する際に影響を受けた中国人監督馮艶のドキュメンタリー映画『兼愛』に目を向けた。分担者荒木とともに『兼愛』と中国系カナダ人監督ユン・チャンのドキュメンタリー映画 *Up the Yangtze* との比較考察を行い、共著論文「三峡ダム建設をめぐる二つのドキュメンタリー映画にみる「他者」の声 『兼愛』と *Up the Yangtze* 」として纏めた。その他、『アメリカ研究の現在地』では「ネバダ核実験場と文学」と題したコラムを執筆し、エコクリティシズム研究学会ではワークショップ「アジア系と病」を企画・開催した。また本研究課題に関する国際ワークショップを国立京都国際会館にて開催し、カナダ環境文学に精通している UNB のジョン・ボール教授のご講演についてのコメントを述べた。

荒木陽子はアトランティック・カナダの作家を中心に、その環境表象、天然資源にまつわる文学表象の研究・発表につとめた。マクラウド（石炭）、モリッシー（水産資源・石油）、キャンベル（石炭、鉄鉱石）は、いずれもその天然資源喪失と同時に起こる地域産業の空洞化を、地域社会、そして家庭の崩壊と重ねて描いていることが明らかになった。キャンベルについては、論文「アトランティック・カナダの資源と環境 ジョナサン・キャンベルの『ターケイディア』をめぐって」を執筆し、学会誌で発表した。モリッシーについては、シルヴァナス三部作を取り上げ、「水の流れが人の流れをかえる：モリッシーのシルヴァナス・ナウ三部作をめぐって」と題した学会発表を日本カナダ文学学会のシンポジウムで行い、その後、論文「ドナ・モリッシーのシルヴァナス・ナウ三部作 海、ヒト、資源をめぐって」として学会誌で発表した。荒木は日加の（ドキュメンタリー）映画分析も積極的に行った。前述の『兼愛』と *Up the Yangtze* に関する共著論文のほか、共著論文「ノヴァスコシアのマイノリティ環境活動の交差 *There's Something in the Water* にみる環境レイシズムと『女性たち』」と題した論文を学会誌に発表し、日本映画『日本沈没』を取り上げた「Cli-fictionalizing Japan Sinks: Spin-offs and Adaptations of an Earthquake Stories」と題した研究発表を中京大学の国際シンポジウムで行った。また本研究グループが開催した国際ワークショップで、荒木はカナダ留学時代の恩師である前述のボール教授と、中京大学のクリストファー・アームストロング教授を招待した。さらに、文学の枠を超えて、教育学や社会福祉学を専門とする研究者や学生を交えた環境文学の読書会の開催にも尽力した。

一方、岸野と荒木は最終年度に現地調査を行い、アントロポセンの始まりを示す基準地候補となったクロフォード湖を訪れ、同時期に加速した人間活動との関係性について考察することができた。

佐藤アヤ子はマーガレット・アトウッドの近未来小説 *マッドアダム* の三部作を中心に、アントロポセン時代にカナダを代表する作家が環境をどう捉えているのかを考察した。人類はほぼ死に絶え、遺伝子組み換えから誕生した動物や人間動物が生活する *マッドアダム* の物語にみる終末的な世界は一見荒唐無稽な SF のようだが、決してそうではない。「作品中のテクノロジーや生物学的事象には実在しないものや開発中でないもの、あるいは理論上不可解なものは一切含まれない」現実が起こりうることを包含している「思弁小説」であるとアトウッドは述べている。佐藤はアトウッドのこの主張を以上の三部作で明らかにし、さらに本三部作が、『サヴァイヴァル』（1972）でカナダ文学を読み解く手がかりとしてアトウッドが挙げた「生き残ること」の延長上に創作されているという気付きに至った。以上について「アントロポセン時代のカナダ文学を考える 希望はすでにあるのです」と題した研究発表を日本カナダ文学学会のシンポジウムで行い、その後、論文化した。また「ディストピアの向こう側」と「桐野夏生が魅せるディストピア小説」と題した論考をそれぞれ文学雑誌で発表し、アトウッド作品についての招

待講演「マーガレット・アトウッドが語る マッドアダム (MaddAddam)三部作と環境問題」を行った。シアトルとバンクーバーで開催された文学イベントにも参加し、UBC や SFU の教授と交流し、本研究課題についての知見を得た。その他、日本ペンクラブと国際交流基金トロント日本文化センターが共同開催した日本・カナダ文学交流のイベントでは、コーディネーターとカナダ人作家(マーガレット・アトウッド、キャサリン・ゴヴィエ、ヴィンセント・ラム)のトークの聞き手を務め、その後、文学雑誌に「日本とカナダの作家が語る パンデミックによる社会変容と創作への影響」と題した報告書を執筆した。

2020 年以降、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響を受けて、学会の対面開催が不可能となり、海外渡航も困難になったため、計画、方法を部分的に変更せざるを得ない状況となった。研究期間を 1 年延長したが、当初の計画通りに研究がスムーズに進んだとは言えない。しかし、それでもメンバーは定期的に Zoom やメール等で情報共有を行い、進捗状況を確認し合った。また国内外のオンライン開催の学会や研究会、セミナー等にも積極的に参加し、地道に研究を進めてきた。関連する議論や理論をメンバーの間で十分に共有できなかった等、やや課題は残るものの、結果として多くの成果を発表し、多様なカナダ環境文学の広がりを一部ではあるが示すことができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐藤アヤ子	4. 巻 30
2. 論文標題 アントロポセン時代のカナダ文学を考える 希望はすでにあるのです	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 カナダ文学研究	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 荒木陽子	4. 巻 30
2. 論文標題 ドナ・モリッシーのシルヴァナス・ナウ三部作 海、ヒト、資源をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 カナダ文学研究	6. 最初と最後の頁 21-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岸野英美	4. 巻 30
2. 論文標題 Rita Wong が描く三峡ダム、長江 “ lips shape yangtze, chang jiang, river longing” から “ for bing ai” へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 カナダ文学研究	6. 最初と最後の頁 5-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 荒木陽子	4. 巻 32
2. 論文標題 視覚障害を抱える人々に向けて講義を書き起こす 『アンという名の少女』に描かれるインクルーシブな「アンの世界」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 敬和学園大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤アヤ子	4. 巻 -
2. 論文標題 【書評】アン・カーソン著 小磯洋光訳『赤の自伝』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 陸奥新報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤アヤ子	4. 巻 -
2. 論文標題 【書評】モニーク・ロフェイ著 岩瀬徳子訳『マーメイド・オブ・ブラックコンチ』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 山形新聞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤アヤ子	4. 巻 454
2. 論文標題 【報告書】日本とカナダの作家が語る パンデミックによる社会変容と創作への影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本ペンクラブ会報P.E.N	6. 最初と最後の頁 15-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木陽子、虎岩朋加、佐藤アヤ子、岸野英美	4. 巻 19
2. 論文標題 人権教育を念頭においた日加ドキュメンタリ比較 「カレシのおっばい」と「ジェマのままで」が描く乳房除去手術と性的マイノリティのありかた	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人文社会科学研究所年報』	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木陽子、岸野英美	4. 巻 14
2. 論文標題 ノヴァスコシアのマイノリティ環境活動の交差 There ' s Something in the Waterにみる環境レイシズムと「女性たち」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ecocriticism Review	6. 最初と最後の頁 46-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸野英美	4. 巻 27
2. 論文標題 リタ・ウォンの「水」をめぐる想像力 undercurrentを中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 AALA Journal	6. 最初と最後の頁 51-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸野英美	4. 巻 27
2. 論文標題 【エッセイ】医師として、作家として Vincent LamのBloodletting and Miraculous Cures	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 AALA Journal	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤アヤ子	4. 巻 7
2. 論文標題 ディストピアの向こう側	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 図書	6. 最初と最後の頁 23-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木陽子	4. 巻 13
2. 論文標題 アトランティック・カナダの資源と環境 ジョナサン・キャンベルの『ターケイディア』をめぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エコクリティシズム・レビュー	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸野英美	4. 巻 27
2. 論文標題 ヒロミ・ゴトーの『ハーフ・ワールド』に描かれる異界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 欧米文化研究	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸野英美、荒木陽子	4. 巻 68
2. 論文標題 三峡ダム建設をめぐる二つのドキュメンタリー映画にみる「他者」の声 『兼愛』とUp the Yangtze	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 英語英文学研究	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤アヤ子	4. 巻 898
2. 論文標題 桐野夏生が魅せるディストピア小説	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 図書	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 佐藤アヤ子
2. 発表標題 アントロポセン時代のカナダ文学を考える 希望はすでにあるのです！
3. 学会等名 日本カナダ文学会第40回年次大会シンポジウム「アントロポセン時代のカナダ文学を考える」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒木陽子
2. 発表標題 水の流れが人の流れをかえる：モリッシーのシルヴァナス・ナウ三部作をめぐる
3. 学会等名 日本カナダ文学会第40回年次大会シンポジウム「アントロポセン時代のカナダ文学を考える」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸野英美
2. 発表標題 Rita Wong が描く三峡ダム、長江 “lips shape yangtze, chang jiang, river longing” から “for bing ai” へ
3. 学会等名 日本カナダ文学会第40回年次大会シンポジウム「アントロポセン時代のカナダ文学を考える」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤アヤ子
2. 発表標題 日本におけるカナダ文学研究
3. 学会等名 多元文化研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoko Araki
2. 発表標題 Representations of Sexual Minority Youth in Atlantic Canadian Screen Media: A Study
3. 学会等名 Atlantic Canada Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoko Araki
2. 発表標題 Cli-fictionalizing Japan Sinks: Spin-offs and Adaptations of an Earthquake Stories
3. 学会等名 国際シンポジウム: Writing Climate / Changing Fictions (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岸野英美、深井美智子、真野剛
2. 発表標題 アジア系作家と病
3. 学会等名 第 34 回 エコクリティシズム研究学会大会ワークショップ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸野英美
2. 発表標題 三峡地域における強制移住の問題と環境意識の芽生え Rita Wong の作品を読む
3. 学会等名 中四国アメリカ文学会令和4年度冬季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hidemi Kishino
2. 発表標題 Comments on Dr. J. Ball 's Paper
3. 学会等名 International Workshop: Water and Climate Change in Canadian Ecofictions
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoko Araki
2. 発表標題 Comments on Dr. C. Armstrong 's Paper
3. 学会等名 International Workshop: Water and Climate Change in Canadian Ecofictions
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 荒木陽子、虎岩朋加、佐藤アヤ子、岸野英美
2. 発表標題 21世紀のカナダ映画にみるマイノリティ表象
3. 学会等名 日本カナダ学会第46回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒木陽子
2. 発表標題 文化表象を多様化する：よりインクルーシブなコミュニティの形成を目指して
3. 学会等名 中京大学英米文化・文学会 秋季大会特別講演
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸野英美
2. 発表標題 水資源の危機 Rita WongのUndercurrentを読む
3. 学会等名 アジア系アメリカ文学会第29回FORUM2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 David Farnell, 渡邊真理子, 岸野英美
2. 発表標題 Weirding Ecology 異化のエコロジー
3. 学会等名 エコクリティシズム研究学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤アヤ子
2. 発表標題 マーガレット・アトウッドが語る マッドアダム (MaddAddam)三部作と環境問題
3. 学会等名 敬和学園大学 カナダ文学・文化公開講演会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 荒木陽子
2. 発表標題 G.E. Clarkeの「アフリケーディア」を超えて Maxine Tynesの「つながる、ひろがる」詩
3. 学会等名 日本アメリカ文学会第62回全国大会
4. 発表年 2023年

## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 辻和彦、平塚博子、岸野英美 編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 240
3. 書名 終わりの風景	

1. 著者名 伊藤詔子、中野博文、肥後本芳男 編著 横山良、辻祥子、山本貴裕、城戸光世、倉科一希、上西哲雄、マイケル・ゴーマン、森口(土屋)由香、松永京子、高橋博子、岸野英美、岩崎佳孝、塩田弘、渡邊真理香、本岡亜沙子、田中久男、田中きく代 他著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 388
3. 書名 アメリカ研究の現在地(岸野担当:コラムE)	

1. 著者名 飯野正子、竹中豊 監修、日本カナダ学会 編 佐藤アヤ子、岸上伸啓、神崎舞、宮澤淳一、吉原豊司 他著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 392
3. 書名 現代カナダを知るための60章 第2版(佐藤担当:第53章)	

1. 著者名 山本秀行、麻生享志、古木圭子、牧野理英 編著 松本ユキ、水野真理子、宇沢美子、志賀俊介、巽孝之、中地幸、渡邊真理香、風早由佳、松永京子、岸野英美、加藤有佳織、ウォント盛香織 著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 266
3. 書名 アジア系トランスボーダー文学 アジア系アメリカ文学研究の新地平(岸野担当:第12章)	

## 〔産業財産権〕

〔その他〕

日本カナダ文学交流・マーガレット・アトウッド（コーディネーター、聞き手：佐藤アヤ子）  
https://www.youtube.com/watch?v=g39RZ8Ad1BE  
日本カナダ文学交流・キャサリン・ゴヴィエ（コーディネーター、司会：佐藤アヤ子）  
https://www.youtube.com/watch?v=wDWUL-Y-Sbs  
日本カナダ文学交流・ヴィンセント・ラム（コーディネーター、司会：佐藤アヤ子）  
https://www.youtube.com/watch?v=jaG\_P49uZrs

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 アヤ子  (Sato Ayako)  (70139468)	明治学院大学・国際平和研究所・研究員   (32683)	
研究分担者	荒木 陽子  (Araki Yoko)  (90511543)	敬和学園大学・人文学部・准教授   (33104)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
International Workshop: Water and Climate Change in Canadian Ecofiction	2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------